

# へトへト、ワクワクの 職場体験

デイサービスセンター滝ノ町  
デイサービスセンター友岡  
デイサービスセンター上植野

## チャレンジ 神川

京都市立神川中学校

6月1日(月)～5日(金)

DS  
友岡

● 介護を受けている私のおばあちゃんの気持ちがわかればと思った。働くことの勉強ができました。感謝されてうれしかったです。(藤原 明音)

● お年寄りとの接し方がわからず難しかった。「どこに住んでいる」「名前は」など、いろいろ質問してもらいました。(久貝 美里)

DS  
上植野

● 話がかみあわないこともあったけれど、折り紙を教えてもらったりして、学ぶことが多く楽しかった。昔の話や中国にいた頃の写真も見せてもらった。(谷口 友唯)

DS  
滝ノ町

● 同級生とは考え方や反応が違って、大きなアクションで驚いてくれたのでおもしろかったです。昔の知恵や長生きの仕方を教えてもらいました。(森 環名)

● 特に将来の夢がなかったけれど、ここへ来て「自分がやりたいのは介護だ」と思えました。「手伝って」と言われるようになり、自分も役に立っているのがわかりうれしかった。(恵 千春)

● おしぼりを出したり、お膳を下げたりと大変だった。「孫より年下」と言われ驚きました。(佐藤 夏帆)



### 1 歳時記

・・・地元のみなさんとともに  
働く喜びを千春会で

#### 京都市教育委員会より表彰状授与

5月13日(水)

2月に、京都市立鳴滝総合支援学校から実習生を受け入れました。京都市からの職場実習ということでの協力は今年が初めてとなり、京都市教育委員会より「感謝状」が菊地理事長に手渡されました。当法人では、すでに5名の障害者の方が入職されており、毎日、多くの仲間に関わって楽しく仕事に励んでおられます。



感謝状を贈呈される菊地理事長  
(左:鳴滝総合支援学校 山本先生)

### 2 歳時記

地域の美化を  
共に目指そう!

#### 530(ゴミゼロ)運動参加 5月26日(火)

長岡京市では、毎年5月に530(ゴミゼロ)運動を実施。今年も、職員がゴミ袋片手に清掃に励み、美しいまちづくりに協力しました。



### 3 歳時記

「命」をつなぐ  
連携医療

#### 救急救命士研修 第1回 5月25日～29日

今年度も乙訓消防本部から病院研修(4回)の依頼があり、第1回研修に2名が来院。感想をいただきました。



岡本喜代治さん

研修中、一番すごかったのは、理事長以下、全職員一丸となって様々な取り組みをされ、いかに患者さんや地域医療への充実を図っていくかを常に考えておられることです。このような医療機関が私達の管内にあることが大変心強く、相互交流で協力体制を深めたいと思います。

平井勝治さん

自分が搬送した患者さんのその後を知る重要な機会を得ました。普段から徹底されておられるNSさんの気配りや手技も素晴らしく、医療安全管理の講義は、教育情報の少ない私達には非常にありがたい経験で、深く感銘しました。

### 編集後記

今年も暑くなりそうな夏。水辺の清々しい水しぶきは、人の心を落ち着かせます。千春会では、夏の暑さに負けない「力」が学会発表で結集されました。また、初開催の「介護者家族会」では、ご家族の心を打つお話しに、感動の涙で一杯になりました。これからも、千春会は人を潤す「水」の如く、つらいとき、苦しいとき、いつも変わらず支え続けます。地域への貢献に終わりはないと、さらに心した家族会でした。(弘)

### 患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院  
**千春会病院**  
〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26  
TEL (075)954-2175 FAX (075)955-4615

2009年7月号 Vol.13 (2009年7月1日発行)

# せんしゅん



ISO9001:2000認証取得  
日本医療機能評価(Ver.5)認定病院

<http://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索

発行責任者: 菊地 孝三



長岡天満宮 八条が池

### 理念(3つの使命)

- 1 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会



院長 藤原 仁史



6月14日の日曜日、京都府医師会館にて「第44回京都病院学会」が開催されました。

曇り空の朝ながら、「暑く」「熱く」なりそうな予感のする一日が始まりました。

千春会病院からは各部署より14演題を発表します。演者とそのサポーター達は、これまで抄録作成、演題申し込み、発表するデータの整理と分析、スライドの準備、発表原稿の推敲、そして院内予演会での厳しい質問への対応と、ひとつひとつ難関を乗り越えてきました。万全の準備ながらもちょっと緊張の面持ちで、演者とその応援に駆け付けた仲間のスタッフの面々が、発表本番を迎えて続々と集まってきています。

演題発表は朝一番の8時40分の薬剤部から、夕方4時半の慢性期看護のセッションまで丸々一日かけて順次行われます。医師会館の4会場と隣接する京都市立看護短期大学の2会場に分かれて並行して進行していくため、分刻みのタイムスケジュール表が管理部にて事前に作成され、各人に配布されています。

会館正面で受付を済ませて緑色のネームカードに大きく「千春会病院」と記入の後、演者達は発表への決意を示す「赤いバラ」を胸に付けて、さあ始まりです。まずは医師会館3階の第3会場において薬剤部の発表です。朝早いセッションですが会場には聴衆が80人以上はいるでしょうか、立ち見も出るほどの満員状態です。

4番目に「センシュ会病院」と座長の先生から紹介された井口薬剤師は、準備した通り落ち着いた5分間の発表をされました。演者5人の発表のあとで質疑応答の時間です。口火を切って私自身と筒井先生から、「せんしゅんかい病院」としっかり訂正しつつ、他施設の演者達への鋭い質問をしてきました。

続いて1階の第1会場に移動、看護部からの2演題と続きます。小畑看護師は外来フロアでの問題解決へ向けての取り組みを、横田看護師からは内視鏡室での



急変時の対応策について、自らの主張をわかりやすく発表されました。

さらには同時並行して2階大ホールでは、透析センターの石原先生が高齢者医療部門のシンポジウムに参加、「高齢者への透析適応の判断には生物学的な年齢が重要」と訴えられました。



スタッフ数の増加率ナンバーワンのリハビリ科からは、後田理学療法士が地域連携パスについての演題、病棟からは久保看護師が院内予演会で大きな反響を巻き起こした糖尿病患者指導の工夫についての演題、そして放射線科からは「京都府医療功労賞」受賞者の四井部長から腎疾患の画像診断に関する演題が発表され、午前中のスケジュールを終えました。

熱気あふれる会場から外へ出ると陽射しはジリジリと強く、汗が噴き出る程の暑さです。

休憩をはさんだ後、午後の一番は検査科の中川検査技師による眼底カメラ導入についての演題、大ホールでは透析センターの和佐野看護師から透析患者の自己管理についての発表です。ほぼ同時に行われた病棟の前川看護師の「胃瘻のスキンケア」についての発表では、座長の先生からの質問にも的確に答えておられました。ふと気がつけば理事長も会場に登場、演者達に大きな拍手を送っています。



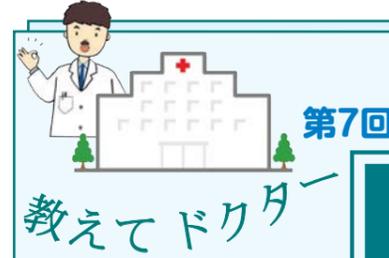
4時頃からは当院の在宅医療の現状と看取りの問題について訪問診療の今林先生から発表、続いて嚥下食プログラムが奏功した2症例について谷中管理栄養士からの発表です。地域連携部門では岩永相談員から「相談業務と退院支援」についての演題がなされ、千春会病院のトリには亀谷訪問看護師から「在宅での褥瘡管理」についての発表がなされました。

管理部のスライドサポートチームのお陰もあって、14演題とも統一感のある堂々とした発表がトラブルなくできました。



帰り道、皆の姿が充実感と自信で少しだけ大きくなったように見えたのは私だけでしょうか……。

「熱い」一日、皆様お疲れ様でした。



「先生、胃が痛いです」  
ちょっと待って！それホントに胃の痛み？

ある日、Xさんが千春会病院内科を受診されました。みぞおちを押さえて「先生、胃が痛いです。」(みぞおちの痛みを心窩部痛(しんかぶつう)といいます。)診察後、先生は胃カメラを行わず、腹部超音波検査と採血を行いました。「なぜ？胃カメラをしなくていいの？」

検査の結果、急性虫垂炎(いわゆる盲腸)との診断でした。結局、Xさんはその日、急性虫垂炎の手術を受けられ、無事数日で退院されました。

「あれ？なぜ、虫垂炎なのに胃が痛いの？虫垂は右下腹部にあるはずなのに？」

本来、痛みがある内臓(この場合、虫垂)の痛みが、神経を伝わってしまい、違う部位に痛みを感じることがあります。このような痛みを「内臓痛」と言います。虫垂炎の場合、この「内臓痛」が生じることが多く、やっかいなことに右下腹部痛がおこる前に胃のあたりが痛くなるのです。実は虫垂炎(盲腸)は初期の段階で診断が難しいことは医師の間ではよく知られています。

診察当日は虫垂炎の確診には至らず、胃薬で様子を見たところ、翌日になって症状がはっきりして診断に至ることも一般的によくあることです。(腹部超音波やCTでも初期の虫垂炎はわからないことがあります)

一口に胃のあたりが痛いと言っても、実はいろいろな病気があるのです。例えば、膵臓・胆嚢・胆管の炎症や癌などでも胃のあたりが痛むことがあります。また、心筋梗塞など心臓の痛みも胃が痛いと言えられる患者さんもいらっしゃいます。

だから、胃の痛みは「たかが胃の痛み」と、市販の薬に頼り切ってしまうのは非常に危険と言えます。

しっかりと、かかりつけ医の診察を受けて、治療を受けた方がよいでしょう。



消化器内科  
金光 宣旭 先生



検査のお話・2  
動脈硬化の生理機能検査

私たちが直接患者さんとふれあつて検査する項目を生理機能検査といいます。今回は、そのなかから動脈硬化を調べる「眼底検査」と「ABR検査(Ankle Brachial Index)」(Kensa)をご紹介します。

眼底検査は、目の奥にある網膜や血管の状態を直接見て調べますが、当院では瞳孔を広げるお薬を使わずに検査します。写真を撮るときに眩しさは感じますが、痛みも無く短時間で済む検査です。高血圧や糖尿病、動脈硬化のある方は、病気の進行状態を調べるために、また人間ドックや健診では、早期の血管異常を発見するのに役立ちます。自覚症状がない方に眼底出血や緑内障が見つかることも、決して珍しいことではありません。

ABRは、四肢の血圧を測ることで、血管の「しなやかさ」や「詰まり具合」を調べる検査です。50代以降に多い、歩くとき足が痛み、休憩するとまた歩けるようになる間欠性跛行という症状が特徴の、閉塞性動脈硬化症(ASO)の診断にも役立ちます。同時に血管年齢も表示されますので、「自分の血管は何歳くらいかな?」と思われる方はぜひ参考にしてください。

動脈硬化を調べる検査は他にも、超音波で首の血管を見る「頸動脈エコー」があります。

いずれも痛みのない検査ですので、どうぞ気軽に医師やスタッフに声をかけてください。



眼底カメラ



検査科主任  
中川臨床検査技師

千春会 最高顧問に  
ガン治療法・ハイパーサーミア(温熱療法)の権威

近藤 元治 名誉教授 就任

この度、ガン治療法「ハイパーサーミア(温熱療法)」の権威、近藤元治先生(京都府立医科大学名誉教授)を当法人の最高顧問としてお迎えしました。長年、大学で教授として後進の指導に尽力され、京都府立医科大学附属病院長をも歴任された近藤先生をお迎えし、千春会はさらにパワーアップしていきます。

今回は、素晴らしい業績をお持ちの近藤名誉教授をインタビュー。にこやかに、気さくにお話していただきました。



<プロフィール>  
昭和 37年 京都府立医科大学卒業  
昭和 53年 京都府立医科大学第1内科教授  
平成 5~7年 京都府立医科大学附属病院院長  
9~11年  
平成 12年 京都府立医科大学名誉教授  
藍野病院院長  
平成 20年 藍野病院名誉院長

千春会顧問としての抱負などお聞かせ下さい

先生：まず、菊地理事長との出会いですが、平成9年頃、2月に就任されたばかりの理事長が大学の研究室にフラッと来られたのが始まりでした。先日、千春会病院をくまなく案内していただき、医局の先生方にもお話を伺う機会を得て、理念に則って理事長と共に全員が頑張っておられることを知りました。その後、「顧問に」というお話になりましたので、まだ抱負を語るというものではありませんが、とりあえず、私が持てる知識や経験を「千春会」に伝えることができると考えているところです。



「ガン治療法・ハイパーサーミア(温熱療法)」を研究されたきっかけは

先生：京都大学の菅原 努先生のチームが、放射線治療の相乗効果を期待して厚生省認可を受けて研究が始まりました。その後、免疫学者である私に声がかかり、そのチームで研究を始めました。ハイパーサーミア学会の健保担当理事になったのを機に、厚生省と掛け合って放射線併用だけではなく、抗ガン剤などとの併用もできるよう、「肝臓ガンが消えた」という症例を携えて申請し、短期間で認可を受けました。これは、ハイパーサーミアにとり画期的な功績でした。

ハイパーサーミアとはどんな治療法ですか

先生：簡単にいいますと、ガンは高温に弱いという性質をもとに開発した電磁波加温機器を使用して、電極でガン部位をはさみ、温熱を与えます。その部分のガンだけが43度~45度くらいに温度が上がることで、ガンが縮小・消滅したり、現状維持ができます。ガンのまわりの正常細胞は血流のため温度が40度前後にしか上昇せず、ダメージはありません。抗がん剤のガン細胞破壊効果が増強され、免疫力が高まり、追い撃ちをかけます。ガンは、発見されたときから「緩和医療」を行って



かねばなりません。抗ガン剤で患者さんの身体を痛めつけるのではなく、痛みのない治療、副作用のない治療としての役割を果たすのが、ハイパーサーミアなのです。「緩和医療」といえば、一般に「ホスピス」「モルヒネ」などが思い浮かびますが、私の考える「緩和医療」とは、あきらめずにガンと闘うという「前向きな緩和医療」のことです。ガンが消えないまでも縮小や現状維持ができることで、体に負担をかけず、ガンと共存していけるような治療こそ、究極の「緩和医療」ではないかと考えています。ハイパーサーミアについては、全国で講演や発表をしてきましたので、今は患者さんにも認知度の高い治療法となっています。



免疫学者でもあり、実際に診療されてきた臨床医でもある先生からお聞きすると、効果にも迫力とリアリティーがありますね。

先生：いろいろな治療をして、効果が得られなくなり、病院を転々とする「ガン難民」といわれる患者さんが、今もハイパーサーミアを頼って全国から来られます。その気持ちを察して「よし、一緒に頑張ろう！」と励ましながら、できる限り治療していきたいと思っています。ハイパーサーミアで全てのガンが治るとは限りませんが、今後は、長年、大学で研究・勉強させてもらった私の知識を少しでも皆さんにお伝えできればと考えています。また、フリーラジカルの研究による抗加齢やガン抑制などもさらに研究を進めたいですね。

千春会についてお聞かせください。

先生：千春会スタッフの雰囲気を見ていると、掲げる「理念」をしっかりと守っていると感じました。医局の先生方を筆頭にスタッフがまとまっており、本当に「良いドクター」「良いスタッフ」がそろったチームですね。介護の方も、活発に前向きに取り組んでおられるので、私もいろいろ提案してみたいですね。



「いろいろな事に全力投球し、多くの方に支えられ、これまできたというのが私の歴史なんでしょうね(笑)」と明るい笑顔の先生。スポーツがお好きで、大学から始められたテニスは、全日本医師テニス大会でも優勝の腕前とか。全国のガン患者さんを受け入れて来られた「深い包容力」。多くの方に知識・経験を伝えたいという「熱い思い」。今も研究に余念のない先生との気さくな会話に、多くのパワーを感じたひとときでした。

ここに響く介護があります  
介護部門からのお知らせ

千春会では、介護の必要な方に適したさまざまな介護サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。

ホームヘルプ事業部 フリーダイヤル 0120-21-8599

居宅介護支援事業所開田	デイケアセンター
居宅介護支援事業所上植野	デイサービスセンター友岡
訪問介護センター開田	デイサービスセンター滝ノ町
訪問介護センター上植野	デイサービスセンター上植野
訪問介護センターみなせ	デイサービスセンター風車
	ショートステイ上植野

話すことで、心の安らぎを：

初の「介護者交流会」開催

5月31日(日)  
場所 デイサービスセンター滝ノ町

「私だけ…」「独りだけ…」  
悩んだ時こそ、一緒に語りませんか…?

以前から、ご要望が多かった「介護者交流会」が、介護事業所合同で開催されました。ご家族に介護を必要とする方がいらっしゃる方で「せんしゅんかいのサービス」を利用されておられる方を対象に、日頃の悩みや孤独感を少しでも軽くできればと、スタッフ一同、何度も何度も話し合ってきた計画でした。

みなさんが心を開いて、お互いに語り合うことで、不安や戸惑いが少しでも解消されれば、孤独になりがちな「介護」も「喜びや楽しみのひととき」に変えることができるのではないかと…。

そんな思いを込めて開催された「交流会」は午前・午後の2部構成で行われました。



まず、長年、看護と介護に携わってきた寺山部長の挨拶。

引き続き、看護師でデイサービス滝ノ町の責任者でもある瀧本主任が、義母の介護経験なども踏まえ、「食べる」をテーマに話をしました。



「安全に飲み込むための注意」などのくだりでは、飲みこみづらい姿勢で実際にお茶を飲んで体験していただくことも行われ、驚きの声があがりました。

続いて、デイサービスセンター責任者の作業療法士・佐藤主任が、認知症であった祖父の実体験を盛り込みながら「上手に認知症と付き合う方法」「認知症とつきあうホッポの10カ条」などで、わかりやすく話をすすめました。



その後、実際に介護をされている方4名が体験談を話されると、会場のみなさんは、大きくうなずき、時にはあちこちで涙も…。心を揺さぶる体験談の後は、各テーブルごとにお茶とお菓子をいただきながら、日頃のさまざまな会話がなされました。



あっという間の時間が流れ、参加された方々からは、「もっと話をしたかった」「また、このような機会を作って欲しい」との声が多数。

初めての「交流会」でしたが、皆さんの声にお応えし、今後も開催していきたいと考えています。

毎日の介護には、一言では語れない様々な苦勞や喜びがあります。

どうか、独りで悩まず、話せる場所が「千春会」にあることを忘れないでください。

